

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度理念を新たにした。職員の代表者が集まり職員の手で理念を作り上げた、それを定着させるべく、勉強会の開催と施設内の掲示、また来年度の事業計画に反映させていく取り組みを実施中。	昨年8月に職員のプロジェクトチームで考えられた現理念を事務所内に掲示し、共有と実践に繋げている。職員に対しては年度初めの事業所の年間計画の中で徹底と推進を図っている。家族に対して利用契約時に理念に沿った支援内容について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナが落ち着き、運営推進会議も対面での方法で再開された。外部の訪問者の受け入れも再開しており、日常的に交流する機会が増えてきている。市内の事業所と協力し作品展を開催し地域の方に足を運んでいただいた。	開設以来自治会費を納め地域の一人として活動している。コロナ禍の状況が長引き、地域との関わりが少ない状況が続いていたが、昨年5月の5類への移行を受けて、地域との関わりの再構築を重要テーマとして進めている。その一環として、市内の高校生や区民の方々と連携して月1回「作品作りの会」を開催し、利用者は壁画やおい袋を制作して地域の交流センターに学生の作品と共に展示して内覧会を開いている。また、久々に昨年のお盆には「岡谷太鼓」が複合施設に来訪し、地域の人々と共に楽しいひと時を過ごしている。更に、昨年秋に行われた区の運動会には複合施設の利用者の席を用意していただき、地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の同一市内で運営する事業所と協力し、市からの委託事業である介護予防教室を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度後半から対面での会議の開催を再開した。地域の方々の顔触れも変化があり、一からの関係づくりが始まっている。防災に関して情報を共有した。	コロナ禍の状況が長引き、書面での開催が続いていたが、昨年10月より対面での運営推進会議が再開された。区長、介護相談員2名、市介護福祉課職員、ホーム関係者が出席して3ヶ月に1回行われ、利用状況、職員関係、事故・ヒヤリハット等の報告や意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政関係者をお呼びし運営推進会議や運営連絡協議会など事業所のサービス内容や地域の状況を共有する機会を作っている。	市介護福祉課とは事故・ヒヤリハット報告等、必要に応じて連絡を取っている。また、市介護福祉課、諏訪広域連合には地域マネージャーが定期的に訪問して連携を取っている。昨年、広域連合が実施した介護フェスタの際には地域マネージャーが実行委員長を務めた。介護相談員の来訪は昨年8月より再開された。毎月2回、2名の相談員の来訪があり、利用者との交流のひと時を過ごして気づいた事柄については口頭にて報告がされている。介護認定更新調査の際には調査員がホームに来訪し、ケアマネージャーが対応している。	

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を開催し、委員が中心となって研修を開催したり、事例検討を通じて日常的なケアの見直しにつなげている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠されている。帰宅願望のある利用者が数名いるが、職員が付き添い、話をしたり散歩やお手伝い等をしていただくことで落ち着いていただいている。ホール全体がキッチンから見渡せる造りとなっているが、日中は1時間に1回、夜間は2時間に1回所在確認を行い、安全確保に繋げている。また、2ヶ月に1回身体拘束適正化委員会で拘束に対する勉強会を行い拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の中での研修の実施や、全職員と対象にした必須研修の開催など、職員の教育の機会を確保している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者が中心となって外部研修に参加したり、その内容を伝達研修したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をした後に1つずつ質問等の場を設け、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査を年に複数回開催し、日頃の業務の見直しをおこなったり、次年度の事業計画につなげたりしている。	家族の面会については、新型コロナ5類への移行を受け、現在は居室や1階相談室で時間や人数の制限なしにコロナ前のような状況に戻している。利用者のホームでの生活の様子は、毎月発行されるお便り「だるま便り」に担当職員から個人メッセージを添えてお届けし、家族より喜ばれている。合わせて日々の気づいた事柄については電話で家族に知らせたり、ケアプラン更新時のカンファレンスに家族にも出席して、意見を頂き、意思疎通を図っている。また、コロナ前に実施していた年1回の家族会も中止の状況が続いているが、今年は開催したいという意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム内で会議を開催したり、年間計画の中で定期的な面談の機会を設けている。また日常的に積極的に職員と会話することでリアルタイムに話が聞ける体制を構築している。	月1回程度、必要に応じフロア会議を開催して利用者一人ひとりの状態確認、行事報告、業務の見直し、各種研修会、意見交換等を行っている。日常のやり取りについては申し送りの中で確認し合い、日々の支援に繋げている。法人として人事考課制度があり、年度末の3月までに自己目標を振り返り、次年度の目標を立て、4月に地域マネージャーによる個人面談が行われ、モチベーションアップに繋げている。また年1回10月にストレスチェックが行われ職員のメンタルヘルスにも配慮がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの仕組みを構築しており、その中で各自の目標を定め、目標管理シート(チャレンジシート)にまとめて、それをもとに面談を実施している。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務時間内、勤務時間外問わず職員に研修の情報を発信したり、研修終了後職員の提案がサービスにつなげられる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諏訪広域連合管轄内の事業所とは連絡会を通じて情報交換を行っている。また介護フェスタの開催を通じて他サービスとの事業所とも交流の機会があった。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接などでご本人・ご家族からの要望や困っている事を聞き、生活での不安を取り除けるよう、職員間で情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や初回カンファレンスなどで傾聴し、安心してご利用いただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面接にてお困りごとを傾聴し、場合によっては居宅支援事業者、施設事業者などに情報を提供しつなげる支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除など出来ることを見つけ、職員のみだけでなく、ご利用者も一緒に行っていたりするように声かけなどして行っていたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を交えたカンファレンスを開催しご家族も介護に携わる関係者としてお気持ちを持っていただける機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出レクリエーションなどでご本人のなじみの場所を訪問する機会を作っている。コロナが落ち着き、面会の受け入れを再開しており、ご本人のなじみの方と会える機会を作っている。	家族の許可を頂いている友人、兄弟、お孫さん等の面会があり歓談されている。また、毎日交代で近くの馴染みのスーパーまで食材や欲しい物の買い物に出掛け、外の空気を味わっている。更にかかりつけ医の受診時には、家族と食事をしたり家の様子を見に立ち寄る方もいる。理美容については、2ヶ月に1回、顔馴染みの訪問美容師が来訪し、カットしていただいている。年末には恒例の手作り年賀状を家族に出して喜ばれている。	

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	座席の配慮、外出にご一緒する方の配慮など、 ご本人にとって顔なじみの関係が作って いけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、次に利用されるサービス 事業者へ情報を提供し継続した支援が提供 できるよう努めている。必要があればその 後の相談もお受けできるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の関わりのなかでつづやきを拾い上げ たり、過去の生活歴の中からご本人の希望 を拾い上げたりしている。	全利用者が言葉で意思表示の出来る状況であり、提案 に対しての表情等の様子を見て意向に沿えるように取 り組んでいる。また、過去の生活歴も参考に、花を育て ることが好きな方については駐車場に花壇を作り、その 生長を楽しんでいただいている。合わせて日々の気づ いた事柄についてはタブレットの個人記録の「つづやき 欄」に記録として残して情報を共有し、申し送り時に確 認し合って利用者の希望に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居前にご家族・関連機関への聞き取りを 行いながらプロフィール表の活用をし、職員 で情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	過去の生活歴やホーム内での状況をもとに プランに反映させたり、役割表を作りご本人 の役割を持っていたりよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人との会話や、ご家族を交えたカンファ レンスを開催しプランに反映させている。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室管理、日々の状 況把握などに努めている。担当職員とケアマネージャー が事前の打ち合わせを行い、家族にも出席していただ き更新前カンファレンスを行い、家族の希望も伺いモニ タリングして、ケアマネージャーがプランの作成を行って いる。入居時は1ヶ月の暫定プランを作成し、様子を見 て利用者一人ひとりの状態に合わせ、3ヶ月、6ヶ月、1 年のプランに移行し、また、その期間に合わせ見直しを 行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行 い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子をできるだけ記録に残してい る。一日の中で申し送りをを行い、情報を共有 している。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の個々の状況に応じてプランに反映しており、画一的なサービスとならないよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や運営連絡協議会において地域の方の意見をお聞きする機会を作っており、ケアにつなげられる資源がないか検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の病院やかかりつけ医への受診、相談ができるよう対応し、支援している。体調不良時や相談事など電話連絡などと取り合っている。	入居時に希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、全利用者が入居前からのかかりつけ医の受診対応となっている。その際、家族が同行し、状態については口頭でホーム職員に伝えている。そうした中、協力医の往診希望がある場合は、対応できる体制を整えている。毎週火曜日には契約の訪問看護師が来訪がして、健康管理とともに医師との連携を図り、オンコール対応も可能となっている。歯科については一人ひとりの利用者のかかりつけ医への受診対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	岡谷市民病院の訪問看護ステーションより週1回訪問してもらっており、ご利用者の体調管理に努めている。24時間体制で対応しており、助言などをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は日常生活の状況を情報提供し、入院中も密に連絡を取り、情報交換などに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針について説明を行っている。状態変化に応じて区分変更や他サービスへの申請等を行いながら新たな生活場所への準備を行っている。	重度化した際の指針があり、利用契約時に説明して同意書にサインを頂いている。そうした中、入浴や歩行が難しい状態となり重度化を迎えた時には家族とホームで話し合いの場を設けて、家族の意向も確認の上、ホームとして出来る限りの支援に当たり、法人内の老人保健施設や特別養護老人ホームへの住み替えも含めた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルをもとに全職員対象の研修を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回建屋全体で避難訓練を実施。運営推進会議等で地域の方にも避難方法などを共有し有事に備えている。	年2回以上、併設デイサービスと合同で防災訓練を実施している。7月には1階厨房よりの火災を想定し、消火訓練、通報訓練、利用者全員外へ移動しての避難訓練、防災機器の点検などを行っている。1月中に夜勤職員1名での夜間想定での避難訓練の実施を予定している。緊急連絡網はスマートフォンのアプリの一斉配信で定期的に確認訓練を実施している。備蓄については「水」「缶詰」「レトルト食品」等が3日分用意されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様体験などを通じて、利用者様の立場に立った対応を考えている。	利用者が不安な気持ちにならないよう利用者の立場に立ってロールプレイングも交えながら気持ちを汲み取るようにしている。言葉遣いにも気配りをし、命令口調にならないよう親しみを込め接するようにし、接遇研修会の中でも声掛けの仕方等について振り返りの機会を設けて、利用者気持ち良く過ごしていただくようにしている。呼び掛けは苗字に「さん」付けでお呼びし、入室の際には3回ノックをして「失礼します」の声掛けをするよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	世間話などの普段の生活の中で選択して頂ける声掛けの工夫などを行い、自己決定できるよう務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴のタイミングはご本人にお聞きし、可能な範囲の時間帯、順番で対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの服など把握し、ご自身で服を選んでいただいている。化粧をするなど個々に合わせた支援を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒に行き、献立を急遽変更するなどの対応をしている。調理には利用者様が出来る範囲で参加していただいている。	全利用者が自力で食事ができる状況で、職員と共に楽しい時間を過ごしている。元気な利用者が多く、毎日の食材の買い出しから調理のお手伝いまで楽しみながら参加している。献立は法人の管理栄養士の助言を受け、出来立てのものを温かいうちに提供している。岡谷市は鰻の町と言うこともあり、時折「鰻」を楽しんだり、クリスマスにはケーキを作り、正月には「おせち料理」、節分には「恵方巻」、敬老会には「海鮮丼」等をお出して、季節に合わせて「おはぎ」「ぼた餅」等も利用者と共に作り、季節の味を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食器やコップ等が使いやすいものへ変更をしたり、摂取量の把握を行い、水分も好みの物へ変更し、対応している。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々でケアの仕方が違うため、合った方法をアセスメントし、清潔保持に努めている。必要に応じて歯科医からの助言をもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室担当、ケアマネと一緒に状態把握を行い、その方にあった排泄パターンなどを調べ、おむつが減らせるように取り組んでいる。	自立している方が三分の二強、一部介助の方が若干名という状況である。全利用者が自分でトイレに行かれる状況であり、分かる範囲で排泄表に記録として残している。排便については1日1回、本人に確認して排泄表に残している。また、起床時の牛乳、食事前のお茶等で1日1,000cc以上の水分摂取に取り組みスムーズな排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを確認しながら、食事や水分摂取の工夫、体操を行って自然排便を促している。訪問看護やかかりつけ医にも相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の意向を都度確認し、できるだけ希望に応じて入浴できるようにしている。時間帯についても職員の都合ではなく、利用者様の希望をできるだけ反映できるようにしている。	自立している方が若干名、見守りで一部介助の方が半数強という状況である。入浴拒否の方もなく、週3回の入浴を楽しんでいる。また、季節に合わせて「ゆず湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。コロナ禍も落ち着いてきたので状況を見ながら買物のついでに諏訪湖畔にある「足湯」を楽しみたいという意向を持っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	過去の生活をもとに、寝る時間や起きる時間などを情報収集している。温度や湿度を測定し、快適な環境となるよう努めている。巡視の時間も一律ではなく、安眠を害しないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの指示を職員で共有し、薬の管理を行っている。必要に応じて、訪問看護やかかりつけ薬局などに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日ごろのつばやきやプロフィール表をもとに、ご本人の嗜好を調べ、外出レクリエーションや、役割づくりにつなげている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対応が必要な期間が続き、外出が限られていたが、再開している。ご本人の希望をお聞きしながらその日のお気持ちで外出に出かけたりしている。	外出時、自力歩行の方が大半で、歩行器使用の方が若干名という状況である。新型コロナ5類への移行を受け、感染対策を取りながら外出を再開している。天気の良い日には近隣を散歩したり、近くのスーパーまで毎日交代で食材の買い出しに出掛けるなど日課として取り組み、外の空気にふれている。また、人混みを避け、春にはお弁当を持ってドライブを兼ねて諏訪湖畔公園まで花見に出掛け、秋には紅葉で有名な「出早公園」まで紅葉見物に出掛けて季節を感じている。来年度は年間の外出計画を立て、積極的に外出レクリエーションを行う予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を保管はしていないが、ご本人が希望されるものをご購入できるようご家族に連絡をするなど、お金を使用する機会をなくさないよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持できる方は所持できるようにしている。ご本人から希望があった際はご家族にも協力いただきやり取りができるよう支援している。年賀状など季節のやりとりもおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理や換気を実施。季節の花や飾りなどをし、工夫を行っている。	法人の複合施設の2階が当ホームとなっている。広々としたホール兼食堂は、大きな窓から明るい陽ざしが差し込み、開放感が漂っている。窓から外に出ると広いベランダが設置され、外気浴や夏にはバーベキューが楽しめる寛ぎのスペースとなっている。合わせて花壇も備えられており、花が好きな利用者の楽しみの場となっている。また、ホールの壁には利用者の書道等の作品が飾られており、活動の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや食事席に誘導したりし、コミュニケーションが図れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅などで使用していた馴染みの物などを持参していただき、居心地のよい居室になれるように工夫をしている。	掃除が行き届き清潔感漂う居室には洗面台が設けられ暮らし易い造りとなっている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、使い慣れたダンス、イス、ハンガーラック、テレビ等がレイアウトされ、また、家族の写真や誕生日のお祝いメッセージカード等に囲まれて自由な生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	役割表を作成し、個々のできる事をピックアップして行っていただいている。職員は見守りすることで行える内容は積極的にご自身で行っていただけるように工夫している。		